
＜とりっく小説＞ バカ。

松原 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

<とりつく小説> バカ。

【Nコード】

N0635Z

【作者名】

松原 透

【あらすじ】

ひとつの文章にふたつのストーリーという「とりつく」小説です。

(前書き)

そのまま「バカ」は「バカ」とお読みください(拝)

あとがきにて解説させていただいてます。

俺はバカである。

誰が何と言おうとバカだ。

バカなので、他にいい言葉を知らない。

しかしながらここ最近、バカはバカなりに思うことがある。

「あー！！ バカだー！！」

例えば、こんな一言である。

なぜ俺がバカだというだけで始終、自分の鼻水をドリンク代わりにしている子供に指差され、笑われなければならないのか。

極まれに、感激した表情をするクソガキもいる。

俺はバカだが、腹が立つことだってあるのだ。

そんな時は、クソガキに向かって猛突進する……フリをする。

「きゃあー！！」

それだけで、クソガキは母親の後ろに隠れやがる。

ちよつとイイ気分だ。

だが、しかし。

俺が考えていること、知りたいことはそんなことではないのだ。

太陽が、眩しいぜ！

どこかで何かがキラッと光った。

俺が気になっているのは、この青空の下に広がる世界そのものだ。

どんなヤツがいるのか、どんなモノが溢れているのか。

知りたいことは次から次へと湧き出て来る。

しかし、俺はバカだからどうやって知ればいいのか、そこから分らない。

誰かに聞こうにも、俺はバカだから誰も相手にしてくれない。

だから俺は今日もまた、鼻水を飲んでいる子供に笑われながら時を過ごす。

まだ見ぬ世界を夢に見ながら……。

(後書き)

ここまでお読みくださって誠にありがとうございました。

「バカ」を「カバ」に変換して読んでいただくと、ちょっと哀愁のある雰囲気になります。

それだけdeath!!

我ながら身震いするような寒さ……。

自分なりに精一杯書いたので投稿させていただきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0635z/>

<とりっく小説> バカ。

2011年12月2日14時51分発行